

はばたき



橋北小学校
学校だより
No.4
H26.5.14

6年生が先頭に立って、「せいかつをつくる」取組が進められています

前号でお知らせしました「せいかつをつくる」取組が、一步一步進められています。連休明けの5月7日（水）からは、6年生が「よりよい学校に向けて」5つのグループに分かれて、自分たちの取組をしっかりとするとともに、下級生に呼びかける活動を始めました。1週間たとうとしています。その効果が表れてきています。

《5つのグループ》

すすんであいさつグループ

チャイム席グループ

体カアップグループ

ゆっくり廊下グループ

げたばこ整理グループ



「すすんであいさつグループ」は、登校したらすぐに東門と西門それぞれ3～4名が立って、あいさつをしています。6年生同士が率先してあいさつしますから、5年生以下の子どもたちもそれを見習ってあいさつするようになってきています。

5つの目標(前号参照)に加えて「げたばこ整理グループ」もあります。「くつの乱れは、心の乱れ」とも言えます。児童昇降口のくつ箱中のくつが乱れているときは、子どもたちの状態も確かによくはないことが多いように思います。自分のくつをそろえることは、生活の振り返りになったり、これから自分がやるべきことを意識したりするなど、心を整理することになります。小さなことかもしれませんが、大切なこととして取り組みを進めていきたいと思います。

先日、児童昇降口にいた時のことです。一人の6年生の子どもが自分のくつをきちんと揃えていました。「しっかりできているな。」と思って見ていると、その後に友だちのくつがそろっていないのを見つけたようで、さりげなく二人のくつをそろえていました。見ていて心が五月晴れのようにになりました。

体カチェック！（新体カテスト）



反復横とびを練習する1年生

学校づくりビジョンの取組の重点3として「健康でたくましい体の育成」をあげています。様々な取組や活動を進めるにおいても、やはり健康であり体力があればこそ、できるものです。

そこで、体力向上に向けて体育の授業では、子どもたちが運動に親しむ活動（目標をもって取り組む活動や5分間運動等）を充実させたり、外遊びを進んでするよう働きかけたりしています。また、子どもがまずは今の自分の体力、そして自らの体力の高まりの様子を把握することができるよう「新体カテスト」を全学年で実施します。全部で8種目あります

ので既に練習を始めています。来週中にはやり終える予定です。

保護者の方も体カテストをされたことがあろうかと思えます。以前は、垂直とびや斜懸垂、ジグザグドリブルなどが入っていましたが、1999年度（平成11年度）から以下の種目になっています。



長座体前屈に取り組む5年生

- 握力・・・・・・・・筋力（きんりよく）：筋肉が力を出す能力
- 上体起こし・・・・・・・・筋力・筋持久（じきゅう）力：筋肉が力を出したり、筋肉が力を出し続ける能力
- 長座体前屈・・・・・・・・柔軟性：体を曲げたり 伸ばしたりする能力
- 反復横とび・・・・・・・・しゅんびんせい：体をすばやく 動かす能力
- 20mシャトルラン・・・・・全身持久力：全身で 運動を続ける能力
- 50m走・・・・・・・・走る能力 ●立ち幅とび・・・・・・・・とび能力
- ボール投げ・・・・・・・・投げる能力

学習園ができました

理科、生活や総合的な学習の時間などに栽培活動ができる場所として、運動場の南西、体育倉庫の西に新しく「学習園」を作りました。約86㎡（26坪）の広さがあります。学年でこれまでの学習園とあわせてより一層ダイナミックな活動に取り組めるものと楽しみにしています。



《今年度の栽培活動》

- 1年生 鉢でアサガオを育てます。双葉が出てきています。サツマイモも育てます。（生活）
- 2年生 思い思いの野菜の苗（ミニトマト、ナス、シシトウ、キュウリ、オクラ、パプリカ）を鉢に植え付けました。サツマイモも育てます。（生活）
- 3年生 ホウセンカやマリーゴールド、ヒマワリなどを育てて観察します。サツマイモも植えたいと考えています。（理科・学級活動等）
- 4年生 ヘチマやヒョウタンを育てて冬までその変化を観察します。サツマイモも育てたいと考えています。（理科・学級活動等）
- 5年生 かぼちゃと大豆を種から育てます。（理科・学級活動等）
- 6年生 5年生の時に植えたジャガイモを収穫してでんぷんの実験をします。調理もします（理科）

「はぐれ峠とうげのわらい鬼おに」(観劇)を楽しみました



13日は劇団うりんこの「はぐれ峠のわらい鬼」を鑑賞しました。はぐれ峠にいる淋しくても、怖くても、怒っていても笑うことしかできない「わらい鬼」。その鬼退治に来た侍「虎之助とらのすけ」は、とても鬼にはかなわず反対に捕えられてしまう。そこに侍の娘「さえ」が母上の仇と父を討ちにやってくるという意外な展開。そのてん末は・・・・・・・・。

笑いあり涙ありの感動の劇でした。子どもたちは、わらい鬼のことばや娘のさえのことば、侍であり父親としての虎之助のことばをどう感じたでしょう。

「鬼のイメージを勝手に決めつける人間に対して」「武道一筋に打ち込み家庭（妻や娘）をかえりみない父親の姿から」「父親に捨てられた辛さの中、優しさに飢える娘の姿から」などなど・・・・・・・・。

「その子どもなりの受け取り方があるだろうな。」と思いました。終わった後の感想を聞くのが楽しみになりました。おうちでどう感じたか聞いてみてください。

哀しいこともつらいことも かならず誰かが受けとめてくれる。

きっと誰かと分かち合える。

私たちは、お互いに気持ちを伝えあう中で、大切なことを分かち合い、

苦しいことも乗り越えていく力をもっている生きものです。

このお芝居を観てくれた人が「本当の気持ち」を

大切な人と分かち合えることを、心から願っています。

(はぐれ峠のわらい鬼のパンフレットから)

